

# 北社会ニュース 52号

2009年3月11日

発行者：鈴木壮夫

《50年》先週3月4日、母校の校門の前にたたずんだ。私達、高11回生は50年前川内を巣立った。今年も3月1日、男子だけの最後の学年、高61回生が文字通り“翔びたつて”いったらしい。校門の脇に「あと66日・二高一高野球定期戦」の立て看板があった。50年、経っても懐かしいものだ。前夜、先月の講師・山下健二同窓会副会長殿に国分町でご馳走になり、卒業生のパフォーマンスを聞いた。ビックリされたらしい。私もへエー！と思った。校長室での庄司校長先生との懇談もその話題が中心になった。まず、服装。七割がスーツにネクタイ。他は羽織袴だが赤・黄・青・・・と実にカラフル。担任の教師がひとりひとり名前を呼び上げる。生徒は起立して一言一言、320人全員が各自の思いを発言する。ヒヤッとする言葉もあるらしい。一高も一女も同じらしく、先生達は平気。こんなままで終わってしまうのかと山下副会長は心配していたらしい。最後に全員で応援歌を唄った。空気はガラッと変わり、見事に伝統ある仙台二高の卒業式を全員で作り上げた。“巣立ち”と“翔び立ち”、50年前とは様変わりなるも、文武一道は引き継がれている。校長先生初め学校関係者並びに西澤会長初め同窓会関係者にあらためて感謝し、広瀬川を渡りました。翌日、5日は一般入学試験、合格者の発表は本日11日の午後三時とのこと。共学になって3年目。1年目は女子70：男子250、2年目は女子96：男子224、今年3年目は女子97：男子224となりました。

《一年前》一年前、3月18日の北社会ニュース第41号の書き出しは『昨日の夕刊各紙の一面トップ記事は「円高加速95円台」「東証1万2000円割れ」であった』。ほぼ一年経った3月10日の終値は98.61円と7054円でした。11年目の私のソバ屋ごときにも少しだが影響が出始めた。日々、いろんな意見・評論が新聞その他に掲載されている。私が印象に残った言葉。福沢諭吉先生が描いた自助自立を前提にした社会。一人一人が勉強して稼ぐ力を身につけ、自分の足で立っていく。そうすることで初めて真に助けの必要な人に公的なお金をきちんと回すことができる。もう一つ。日本の特徴は世界でも類を見ない平等主義的な社会。欧米のように階級的に分断されたら、この国にはなんの強さも残らない。の二つです。敗戦直後のどん底を経験したことは幸せかもしれません。

## (1) 本日、第270回 北社会

講師：櫻井武寛氏（高14回）一ノ蔵・会長

テーマ：「六次産業の実現」～信頼をキーワードとする一ノ蔵が地域社会（穀倉地帯）への貢献を考えた時、一次産業である農業の再生であると信じています。一ノ蔵が持っている製造業（二次）、流通業（三次）の力を活用して六次産業を醸成して参ります～櫻井氏の想いです。「一ノ蔵農社」を設置して、農業ユートピアの実現も目指しています。

## (2) 来月の北社会

講師：田中秀穂氏（高12回）（株）ガーデン二賀地・代表（仙台市青葉区上愛子）  
世話人・堀内豊太郎氏の推薦です。4月20日（月）から始まる週に開催予定です。

## 櫻井武寛氏との交友のキッカケ

手打そば屋「百丈」を川越市に立ち上げた11年前からソバ粉を初めとする食材は東北地方にこだわった。日本酒も宮城と決めた。一ノ蔵さんの傘下に金龍蔵という小さな造り酒屋さんが栗原市一迫にある。私の遠い親戚でもある。教えてもらって一ノ蔵さんの宮城県内限定品“大和伝”に決めた。お客様にも好評です。もう7～8年も前のこと、一番町に高山書店があった頃、そこで『オンリーワンの蔵・一ノ蔵』を購入、帰りの新幹線で読んだ。櫻井さんが二高の3年後輩で而も慶応・商学部の後輩でもあることを知った。直後に文通が始まり、それから毎年妻と「東京一ノ蔵を楽しむ会」に参加している。この年賀状、何回も読み返し、是非お話しを拝聴したいと思いました。ありがとう！

あけましておめでとうございます

昨年経済環境は秋口からひと波乱もふた波乱もあった大変な年でした。農業関係も大変な時代を迎えており、これでは誰も農業を継がなくなってしまう。土地はますます荒れるでしょう。今は次の三カ条を提案しています。①海外の農産物を原料としている食品産業に一定割合国産農産物を使う義務を負わせる規制を実行する。②主食の米作に従事する全認定農家に対して、国が最低限の生活保証を行う。③徴兵制ならぬ徴農制により全国民が一定年齢に達したら農業に従事することを義務化する。いかげでしよう。規制緩和という甘言に踊らされた信念の無い国から脱皮しようではありませんか。

平成二十一年元旦

〒九八一〇五〇三  
宮城県東松島市矢本字北浦二九の一

櫻井武寛